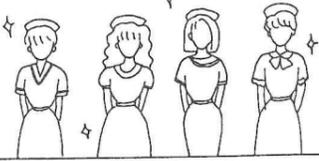


Dr.サイクロ 作. かわさき かわさき 〈コンテスト〉

第1回白衣デザインコンテスト



審査員



きしむペン/したたる汗/
毎月頑張る作者の
マサコマサオさんに
はげましのお便りを出そう/
あて先は、全国協議会ニュース
事務局まで

ハローキティも骨髄バンクを応援します ティッシュ1枚ずつにプリント

全国協議会ではサンリオのご協力を得て、オリジナルポケットティッシュを作りました。キャラクターは子供たちにはおなじみのキティちゃんこと「ハローキティ」です。フルカラーのかわいらしいデザインに加え、ティッシュペーパー一枚ずつにキティちゃんの絵と「骨髄バンク」の文字が印刷されています。



全国イベントカレンダー

〈12月〉

- 2日 骨髄バンク公開シンポジウム 札幌市社会福祉総合センター(北海道)
- 2日 県民の集い 栃木県総合教育センター(栃木)
- 9日 骨髄バンク「愛をください」の集い 第3回(東京)
- 6〜10日 あやちゃんの贈り物展 会津若松市文化福祉センター(福島)
- 14日 愛知県主催シンポジウム(愛知)
- 16日 骨髄バンク推進全国大会'95 江戸東京博物館(東京)
- 16日 フェニックスクラブ・クリスマスパーティー スタジオ・サウルス(東京)

お問い合わせは事務局へ

事務所移転のお知らせ

全国協議会の事務局は浅草の地(東京都墨田区東駒形)を離れ、新宿に引っ越しました。浅草に事務局を設置したのは全国協議会が現在の体制になった時、もう五年半以上も前になります。その後加盟団体も増え、活動量も飛躍的に大きくなり、事務所も手狭になってきました。そこで思い切って新しいところへ移ることになりました。

新事務所は新宿です。都営地下鉄新宿線の曙橋から歩いて一分(A1出口をでて靖国通りを新宿方向へ歩いた左側)という便利なところです。Woody21というきれいなオフィスビルの九階は、広々としたスペースで、運営委員会などの会議も開催できます。

また骨髄推進財団の入っている新宿小川ビルにも徒歩一〇分程度という近さで、なにか都合の良いところです。本紙編集担当者には浅草に愛着もある者もありますが、今後は新宿が活動の場となります。

住所及び電話番号等は次の通りです。

日本骨髄バンク 都道府県別 患者・ドナー登録者数 (平成7年10月末現在)

都道府県	患者	ドナー
北海道	146	4,727
青森	14	544
秋田	14	562
岩手	24	508
宮城	41	1,295
山形	29	468
福島	46	959
茨城	77	898
栃木	57	855
群馬	59	814
東京都	181	1,466
神奈川県	165	1,729
新潟	295	11,534
富山	241	3,573
石川	61	1,394
福井	38	682
山梨	42	665
長野	24	400
岐阜	32	303
静岡県	63	1,014
愛知県	50	1,000
三重	97	1,915
滋賀	239	4,146
京都	61	1,002
大阪	89	2,590
兵庫県	273	5,599
奈良	201	2,226
和歌山	54	818
鳥取	34	440
島根	14	288
岡山	29	468
広島	68	1,142
山口	61	1,932
徳島	65	691
香川	23	352
愛媛	27	438
高知	45	545
福岡	15	367
佐賀	122	2,897
長崎	34	413
熊本	33	652
大分	45	722
宮崎	24	571
鹿児島	31	419
沖縄	42	893
海外	14	460
合計	37	—
	3,509	68,222

心からのご寄付を ありがとうございました

9月21日~10月20日まで

勝御園座	現金	4,500,000
カタギリタカシ	現金	1,000
阿原一良	現金	10,000
高津幸史	現金	10,000
匿名	切手	855
山中陽子	切手	315
岡本次郎	切手	750

(敬称略)

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
さくら銀行 新宿支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
全国骨髄バンク推進連絡協議会



新事務局のあるビルWoody21

新事務局連絡先

〒160 東京都新宿区
愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.03-3356-8217
FAX.03-3356-8637

骨髄バンクの最新情報をお知らせする——骨髄バンクNOW

★骨髄バンク推進全国大会'95開催

骨髄バンク事業に対する理解と認識を深め、より一層の発展を願うため、骨髄バンク推進月間にあたるこの12月に全国大会を開催します。

●日時 12月16日(土) 13:30~17:00

●会場 江戸東京博物館 1階ホール
JR総武線両国駅西口下車

●入場無料 どなたでもご参加できます。

プログラム
開会 13:30~
第一部 式典
主催者挨拶 来賓祝辞
骨髄バンク事業経過報告
第二部 ビデオ&ディスカッション 14:20~

ビデオ「いのちのボランティア」放映

ディスカッション「患者&ドナー」

第三部 ミニ・コンサート 15:30~
東京コミュニケーションアート 専門学校 海援隊

閉会 17:00

なお、この全国大会に先立ち、地区普及広報委員会第一回全国会議が開かれます。
※マンスリーレポート10月号参照

日時 12月16日(土) 10:30~12:00
会場 江戸東京博物館第一学習室
研修内容 財団組織、概要などの説明
普及広報マニュアルの伝達等

★バンクニュース第7号発送

関東地区のボランティア約40名の協力を得て去る11月11日、財団事務局において封入作業が行なわれました。前回の経験が活かされ、手際よく済み予定より一時間ほど早く作業が終了しました。

★パンフレット「チャンス」の英語版翻訳(案)が出来上がりました。

[検査済ドナー登録者 68,222人]
[患者登録者 3,509人]
[移植件数 560件]
(10月末現在)

★骨髄バンクへのお問い合わせは★
フリーダイヤル0120-377-465

各地のたより

東京、大阪で フェニックス 交流会を開催

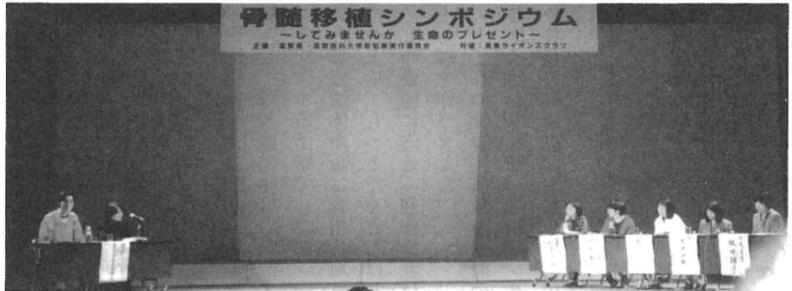
十月十日に東京にて、そして十一月十九日に大阪にて、続けてフェニックスクラブ交流会が開催されました。九月中旬に朝日新聞全国版にクラブのことが紹介されたので、東京では七十人、大阪では三十五人が集まりました。

患者さんの多くは、医療情報を求めて参加しており、それぞれの場にひとりずつ参加していた医師に質問が集中するのです。一方、移植を受けた患者さんは、移植後のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)生活の質)について話したいのですが、現患者さんの苦しみを見て、過去の自分達の姿を思い出してしまうという雰囲気がただよっていました。

特に発病後二ヶ月というある患者さんは、たった一人で一所懸命情報収集をされており、発病したばかりで、まだ病気を受け入れられない患者さんたちも多く、最新情報を伝えることができるようなシステム、また専門の医療相談スタッフの充実が望まれることを痛感しました。

十二月は東京にてクリスマスパーティーを計画しており、フェニックスクラブの「明るく楽しく前向きに」というコンセプトを肌で感じたいと思っています。(大谷貴子)

各地のたよりを 写真を添えて お寄せ下さい。



左が司会の「トクトミトコナミ」さん

今後のバンク発展のために、若い人たちに足を運んでもらいたいという願いが込められたこのシンポジウム。一部は、若手漫才コンビ「トクトミトコナミ」司会によるパネルディスカッション。滋賀大病院の程原佳子医師やドナー体験者、移植経験者、コーディネーターらを相手に「素人代表」の二人が移植やバンクに関する質問や疑問を投げ掛けるという形式でしたが、そこは漫才師。巧みに「ボケとツッコミ」を織り混ぜた「おもろく勉強する」パネルディスカッションとなりました。

一部は、歌手の刀根麻理子さんと滋賀和の会事務局局長による対談。ボランティアの視点からバンクの現状、また自身のボランティア体験から得たことなどを語り合いましたが、こちらの方も女性同士、終始和やかな雰囲気でお話が進みました。

こんなラフな形のシンポジウムでしたが、最後に患者さんの闘病ドキュメンタリーが会場に流れると、場内はシンと静まりかえり、それぞれが様々な思いを胸に抱いた閉幕となりました。

アンケート結果では、解りやすかった、参加してよかったという声が多く聞かれ、関係者一同ホッと一安心。今後も若い人たちに注目してもらえ活動が続いていきたいと思います。

富山 若いパワーに期待広がる

十一月十一日に「骨髄バンクシンポジウムin大門」として富山県射水郡大門町の総合会館で開催しました。富山県立中央病院の内科副院長で移植医の奥村廣和先生の基調講演、提供経験者、高校生ボランティア、コーディネーター、そして移植経験者として油野千里さんが、移植後初めての特別講演とパネルディスカッションをする予定でした。しかし油野さんが前日に準備の奔走で体調を崩し欠席することとなり、彼女の席は空席のままパネルディスカッションを実施しました。

第二部では「多田そうべいほのぼのコンサート」として、会場からの子供の参加、司会者とのとぼけた掛け合い、などで楽しい時間を過ごしました。

今回は高校生ボランティアが

参加し、彼女(彼)らには、いまは登録資格がないが、資格を得るのすぐである、そんな彼女らが骨髄バンクのことを正しく理解し、そして仲間へ理解の輪が広がっていくことを期待したものでした。

低迷傾向にあるドナー登録に歯止めを掛け、さらに盛り上げていくには、若い人達のパワーに期待し、骨髄バンク活動に参加を呼び掛け、二十歳の誕生日にはドナー登録が常識、そんな富山県をめざして活動していきます。(丸山)

佐賀 支部活動の近況報告

十一月十二日、盛岡市でロータリークラブ主催の「骨髄バンク」シンポジウムが開催されました。このシンポについて地元TV局と地元紙の岩手日報が報道。特に岩手日報は二日間にわたり取り上げてもらいました。

陽田運営委員長の講演はすばらしく、会場全体感動だにしないほど話に聞き入っていました。またシンポでは涙する方も多かったと心を引き内容となり準備してくださったロータリーの皆さんも準備しがいがあったとおっしゃっていました。陽田委員長の講演は初めてお聞きしましたが素晴らしいものでした。会場では、東ちづるさんからのメッセージも披露され「微笑みがえし」の販売とチャリティオークションも開いていただき、会場の方がその場で募金を始められるなど予想を超える感動を感じました。県全体のロータリークラブが今後の活動を支援していただくことになりました。(橋本)



登録を呼びかける佐賀支部の仲間

佐賀支部の近況をおつたえます。普及活動では、九月に五日間「あやちゃんの贈り物展」を開催。参観者は二千八百人を数え、寄せられた感想文には感謝、あやちゃんは生きていくことを実感しました。又、目達原駐屯地自衛隊の朝礼で、千名の隊員を前にバンクの説明を行いました。その後は催しごとに案内をいただいています。上峰中学校の中島教諭は授業で骨髄移植を取りあげてくれ、生きていくうちに」の卒業生への贈る言葉に、生徒の健全な成長を確信させるものでした。

登録を呼びかける取りくみは昨年三十二ヶ所で行い、最近では十月十五日から二十日間十ヶ所で行いました。各取りくみでのチラシ配布も、支部自作のもの二万枚に達しました。

岩手 素晴らかった 陽田委員長長の講演

「告知について考える」が開催されました。基調講演には、国立小児病院血液腫瘍科の恒松由紀子先生、シンポジウムでは聖マリヤンナ医科大学病院第一内科の佐野文明先生、そして患者二名、患者家族二名に出席していただきました。過日、財団のテレビコマーシャルに対して病気の良くなられた患者さんのご家族から「病気を思い出すから放送をやめて!」スキンヘッドを見ると患者が本当の病名を知ってしまうから...というご意見が寄せられました。この様な電話から始まった疑問を考えるのセミナーでもありました。もしもして告知をしていたら?では今ドナーを待っている患者さん達はこの声を聞いてどの様に思うだろうか?告知をする事が必ずしも良いと決めることはできませんが、よりよい医療を受ける為には必要な事なのではないでしょうか?

ご出席の皆さまどうもありがとうございました。とても勉強になりました。(関)

告知について考える」が開催されました。基調講演には、国立小児病院血液腫瘍科の恒松由紀子先生、シンポジウムでは聖マリヤンナ医科大学病院第一内科の佐野文明先生、そして患者二名、患者家族二名に出席していただきました。過日、財団のテレビコマーシャルに対して病気の良くなられた患者さんのご家族から「病気を思い出すから放送をやめて!」スキンヘッドを見ると患者が本当の病名を知ってしまうから...というご意見が寄せられました。この様な電話から始まった疑問を考えるのセミナーでもありました。もしもして告知をしていたら?では今ドナーを待っている患者さん達はこの声を聞いてどの様に思うだろうか?告知をする事が必ずしも良いと決めることはできませんが、よりよい医療を受ける為には必要な事なのではないでしょうか?

ご出席の皆さまどうもありがとうございました。とても勉強になりました。(関)

告知について考える」が開催されました。基調講演には、国立小児病院血液腫瘍科の恒松由紀子先生、シンポジウムでは聖マリヤンナ医科大学病院第一内科の佐野文明先生、そして患者二名、患者家族二名に出席していただきました。過日、財団のテレビコマーシャルに対して病気の良くなられた患者さんのご家族から「病気を思い出すから放送をやめて!」スキンヘッドを見ると患者が本当の病名を知ってしまうから...というご意見が寄せられました。この様な電話から始まった疑問を考えるのセミナーでもありました。もしもして告知をしていたら?では今ドナーを待っている患者さん達はこの声を聞いてどの様に思うだろうか?告知をする事が必ずしも良いと決めることはできませんが、よりよい医療を受ける為には必要な事なのではないでしょうか?

ご出席の皆さまどうもありがとうございました。とても勉強になりました。(関)

神奈川 公開セミナー 告知について考える

十一月十二日(日)横浜市政育文化ホールにて、公開セミナー「告知について考える」が開催されました。基調講演には、国立小児病院血液腫瘍科の恒松由紀子先生、シンポジウムでは聖マリヤンナ医科大学病院第一内科の佐野文明先生、そして患者二名、患者家族二名に出席していただきました。過日、財団のテレビコマーシャルに対して病気の良くなられた患者さんのご家族から「病気を思い出すから放送をやめて!」スキンヘッドを見ると患者が本当の病名を知ってしまうから...というご意見が寄せられました。この様な電話から始まった疑問を考えるのセミナーでもありました。もしもして告知をしていたら?では今ドナーを待っている患者さん達はこの声を聞いてどの様に思うだろうか?告知をする事が必ずしも良いと決めることはできませんが、よりよい医療を受ける為には必要な事なのではないでしょうか?

ご出席の皆さまどうもありがとうございました。とても勉強になりました。(関)

告知について考える」が開催されました。基調講演には、国立小児病院血液腫瘍科の恒松由紀子先生、シンポジウムでは聖マリヤンナ医科大学病院第一内科の佐野文明先生、そして患者二名、患者家族二名に出席していただきました。過日、財団のテレビコマーシャルに対して病気の良くなられた患者さんのご家族から「病気を思い出すから放送をやめて!」スキンヘッドを見ると患者が本当の病名を知ってしまうから...というご意見が寄せられました。この様な電話から始まった疑問を考えるのセミナーでもありました。もしもして告知をしていたら?では今ドナーを待っている患者さん達はこの声を聞いてどの様に思うだろうか?告知をする事が必ずしも良いと決めることはできませんが、よりよい医療を受ける為には必要な事なのではないでしょうか?

ご出席の皆さまどうもありがとうございました。とても勉強になりました。(関)

告知について考える」が開催されました。基調講演には、国立小児病院血液腫瘍科の恒松由紀子先生、シンポジウムでは聖マリヤンナ医科大学病院第一内科の佐野文明先生、そして患者二名、患者家族二名に出席していただきました。過日、財団のテレビコマーシャルに対して病気の良くなられた患者さんのご家族から「病気を思い出すから放送をやめて!」スキンヘッドを見ると患者が本当の病名を知ってしまうから...というご意見が寄せられました。この様な電話から始まった疑問を考えるのセミナーでもありました。もしもして告知をしていたら?では今ドナーを待っている患者さん達はこの声を聞いてどの様に思うだろうか?告知をする事が必ずしも良いと決めることはできませんが、よりよい医療を受ける為には必要な事なのではないでしょうか?

ご出席の皆さまどうもありがとうございました。とても勉強になりました。(関)

関東 福島 ピアノ三重奏の夕べは 四年目

今年で第四回目となった骨髄バンクキャンペーンコンサート「ピアノ三重奏の夕べ」は十一月八日から十一日までの四日間、浦和、新宿、松戸、いわきの各会場で開催されました。

このコンサートは毎回、サンクト・フローリアン・ピアノ三重奏団の皆さんの熱い思いが会場に伝わります。特に今回は「世界の民族・世界の音楽」と題し、世界の風景や人々の生活をスライドで映し出し、演奏者のみなさんが説明を加えながら日頃音楽にあまりなじみのない方々にも楽しんでいただける工夫がなされた内容でした。

最終日のいわきでは、前日の夜中にいわき入りして次の日、フィリップ・ヤング氏が帰国するため、その日の夜に帰るといって強行軍で行われました。しかも前二日間は新宿での昼休みコンサートもこなす等移動にも時間を要し、疲労もピークに達しているのではないかとと思われるなかですばらしい音楽をいわき市民にプレゼントしてくださいました。サンクト・フローリアンの皆さんに頭が下がります。

ご友人の金井いづみさんに、

そして骨髄移植を待つすべての患者さんに今回の素晴らしい音楽の響きと共に幸運が訪れることを願っています。

感動の余韻とともに感謝を込めて... (陽田秀夫)

今年で第四回目となった骨髄バンクキャンペーンコンサート「ピアノ三重奏の夕べ」は十一月八日から十一日までの四日間、浦和、新宿、松戸、いわきの各会場で開催されました。

このコンサートは毎回、サンクト・フローリアン・ピアノ三重奏団の皆さんの熱い思いが会場に伝わります。特に今回は「世界の民族・世界の音楽」と題し、世界の風景や人々の生活をスライドで映し出し、演奏者のみなさんが説明を加えながら日頃音楽にあまりなじみのない方々にも楽しんでいただける工夫がなされた内容でした。

最終日のいわきでは、前日の夜中にいわき入りして次の日、フィリップ・ヤング氏が帰国するため、その日の夜に帰るといって強行軍で行われました。しかも前二日間は新宿での昼休みコンサートもこなす等移動にも時間を要し、疲労もピークに達しているのではないかとと思われるなかですばらしい音楽をいわき市民にプレゼントしてくださいました。サンクト・フローリアンの皆さんに頭が下がります。

ご友人の金井いづみさんに、

そして骨髄移植を待つすべての患者さんに今回の素晴らしい音楽の響きと共に幸運が訪れることを願っています。

感動の余韻とともに感謝を込めて... (陽田秀夫)

今年で第四回目となった骨髄バンクキャンペーンコンサート「ピアノ三重奏の夕べ」は十一月八日から十一日までの四日間、浦和、新宿、松戸、いわきの各会場で開催されました。

このコンサートは毎回、サンクト・フローリアン・ピアノ三重奏団の皆さんの熱い思いが会場に伝わります。特に今回は「世界の民族・世界の音楽」と題し、世界の風景や人々の生活をスライドで映し出し、演奏者のみなさんが説明を加えながら日頃音楽にあまりなじみのない方々にも楽しんでいただける工夫がなされた内容でした。

最終日のいわきでは、前日の夜中にいわき入りして次の日、フィリップ・ヤング氏が帰国するため、その日の夜に帰るといって強行軍で行われました。しかも前二日間は新宿での昼休みコンサートもこなす等移動にも時間を要し、疲労もピークに達しているのではないかとと思われるなかですばらしい音楽をいわき市民にプレゼントしてくださいました。サンクト・フローリアンの皆さんに頭が下がります。

ご友人の金井いづみさんに、

そして骨髄移植を待つすべての患者さんに今回の素晴らしい音楽の響きと共に幸運が訪れることを願っています。

感動の余韻とともに感謝を込めて... (陽田秀夫)



東京(11月9日)会場にはトリオの友人である患者の金井いづみさん(右から2人目)も参加しました。右端は司会のフジテレビ武田祐子アナウンサー。

あけび書房

微笑がえし ほほえみ

白血病とたたかう家族たちの絆 1,000円送料310円

遠藤 允

陽田茂子、鈴木秀明、三瓶徳子、鈴木一弘など、病いと立ち向かいながら、骨髄バンク運動を創り、繰り広げてきた人びととその家族のドラマ

骨髄バンクの大切さを読者に伝える一冊!

東京都千代田区神田神保町2-12
☎03-3234-2571 振替00160-6-40323

フジテレビ

見て見ぬふりはやめましょう

フジテレビ